



頭書
大全

世界國盡

附錄

六

ル 2
393
66



門牌
393
卷6

東京大学
学校圖書印

世界國畫附録

地理學の總論

地理學ハ西洋の語にて志よりがらひいといふ
義を故に地理學ハ地球上のみとを書記し地
球の外面と包む空氣の有様まぐも説き明ら
ふより學問を
地理學と三箇条を介し第一箇条を

東京大学
圖書印

世界國畫附録

土界國言五附録
 といふ。志よりがらひいといふ天文の地學といふ義を此箇条に於てハ地球と一個の遊星と見做し他の遊星と共に太陽の周圍を廻て四時寒暑の變化を起すかどのを以て論を第二箇条とす。いふ。志よりがらひいといふ自然の地學といふ義を此箇条に於てハ海陸山川の區別草木禽獸の異同物産時候風雨雪霜の模様等と論を第三箇条とす。いふ。志よりがらひいといふ人間の地學といふ義を此箇条に於てハ

人種言語の品類風俗政体の異同文學技藝の巧拙文明開化の前後等と論を

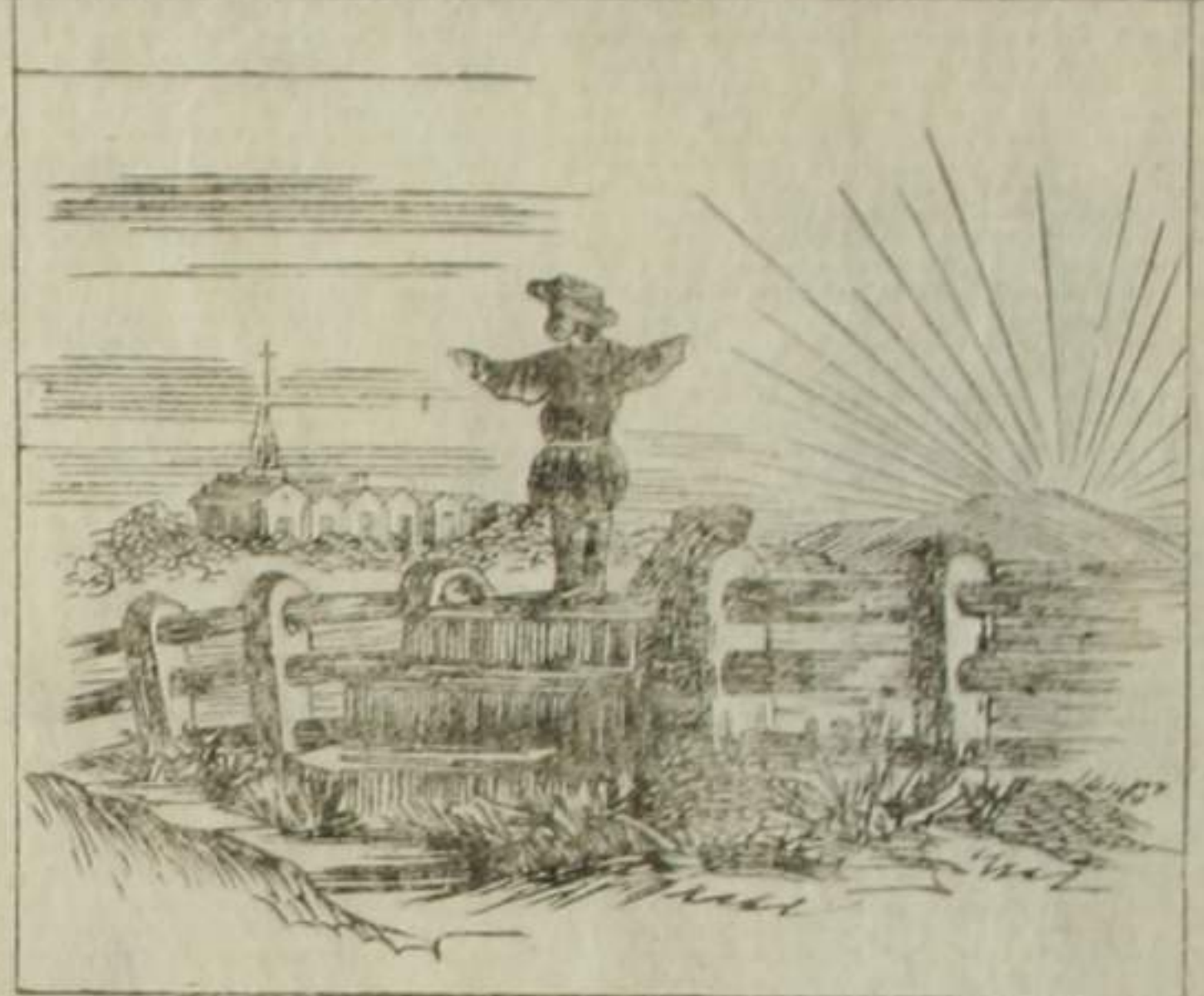
天文の地學

此世界も一個の遊星を遊星とハ圓き物として空中に浮び日輪の周圍を廻て日の温氣と光とを受る星を此日輪に附屬の遊星數多しきども大ひなるものハ唯八個のミ即ち地球も其の内の一ふを地球の圓き證據ハ



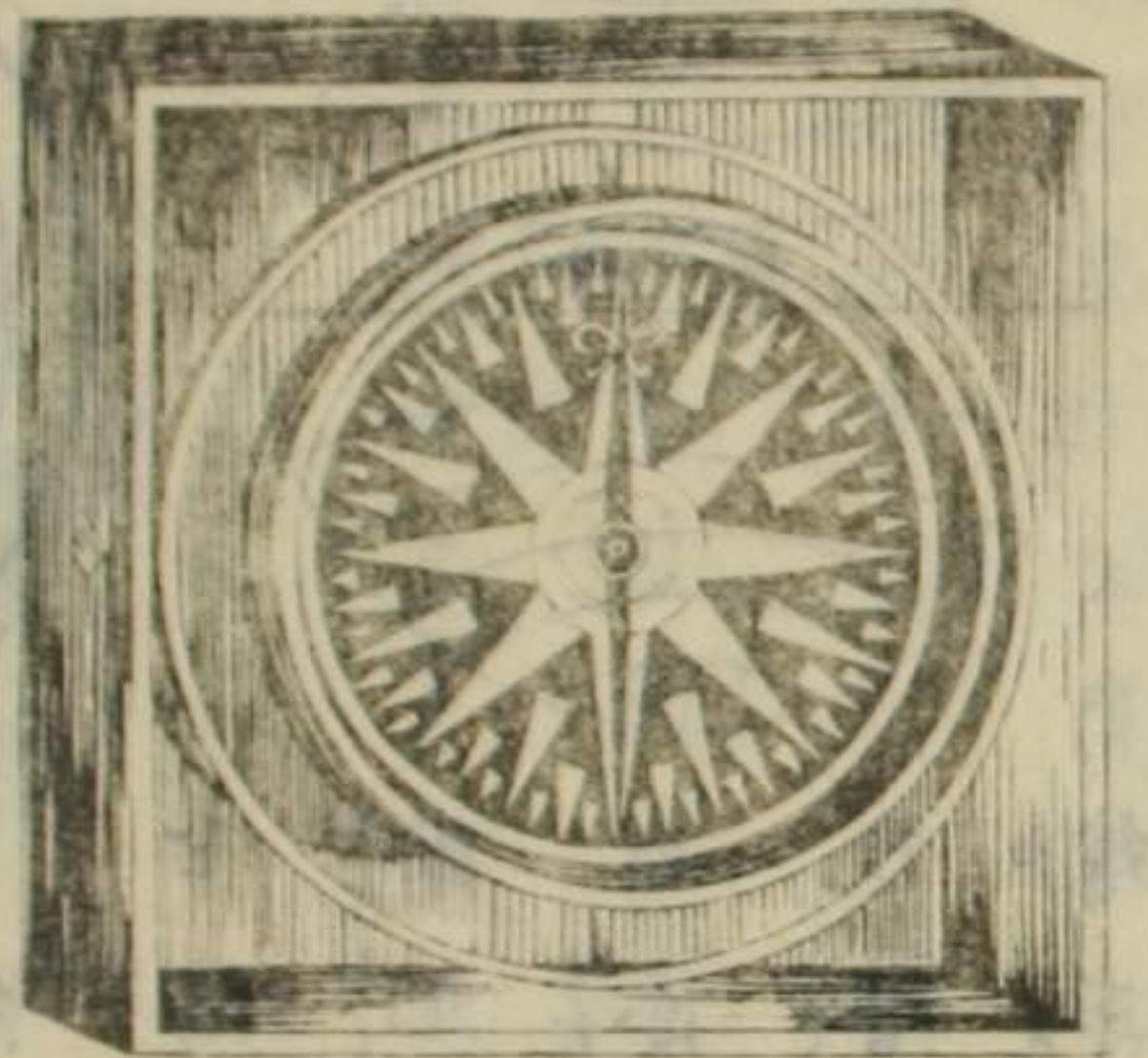
船ふねに乗のりて大洋たいやうより陸りくを眺ながみ始はじめハ山やまの頂いただきのミ
 を見みつけ次第しだい不陸ふりくへ近ちかづく不從ふじゆハ麓ふもとに低ひくき處ところ
 も見みるべし又地球ちきうの影かげの月つき不映ふえいむるに八月はちがつ
 食たと起おこまそ影かげからむ圓まる影かげ圓まる影かげ多おほきバ其物そのもの
 も圓まるきみと知しる也なり
 地球ちきうの周圓しゅうえんを一萬いちまん三さん百ひゃく五ご十じゅう五ご里り余より南なん北きたと
 軸じくおして西せいより東とうへ轉まわび十二じふに時じの間ま一週ひとしゅうと
 終おるみれと一昼いちちゆう夜やと即すなはち地球ちきうの自轉じくせんを斯か
 く自みづから轉まわびかぐと三さん百ひゃく六む十じゅう日にち二に分ぶん五ご厘りんの間ま

小日輪せうにりんの周圓しゅうえんと一週ひとしゅうして本もとの處ところに歸かへるはを
 一年いちねんと即すなはち地球ちきうの公轉こうせんを斯かく日輪にりんの周圓しゅうえん
 と轉廻てんくわいする間まは或あるハみれお近ちかづく或あるハみれお
 遠とほざり且かつ其光そのひかりと真直まっしやうを受うると斜かたを受うるとも
 由よして寒暑かんしょ一様いさむなり四季しきの變化へんかはきがたれ小
 生せいむ但たゞし赤道せきだうと界まめて四時よじ相あ互ひ日本にっぽんなど
 の如ごとき赤道せきだう以北いほくの國くにの夏なつハ何なにもたれをヤ等らう
 此こゝ如ごとき赤道せきだう以南いなんの國くにの冬ふゆなり本文ほんぶん南亞なんあ米利加めいりか
 の篇へん小池せうち鯉りの國くにの冬ふゆハ我われ夏なつふると記ししるも



此國ハ赤道の南不在りて夏冬相反るは四方ハ東西南北を上の繪ハ一人の子供両手をひろげ右左手にて日の出る方と指すこの方東を左の手ハ日の入る方と指すこの方西を面の向ふ方ハ北を背に方ハ南を其の四方の角と羅針盤の本点と名く羅針盤ハ航海の欠く要らざり道具にて唯

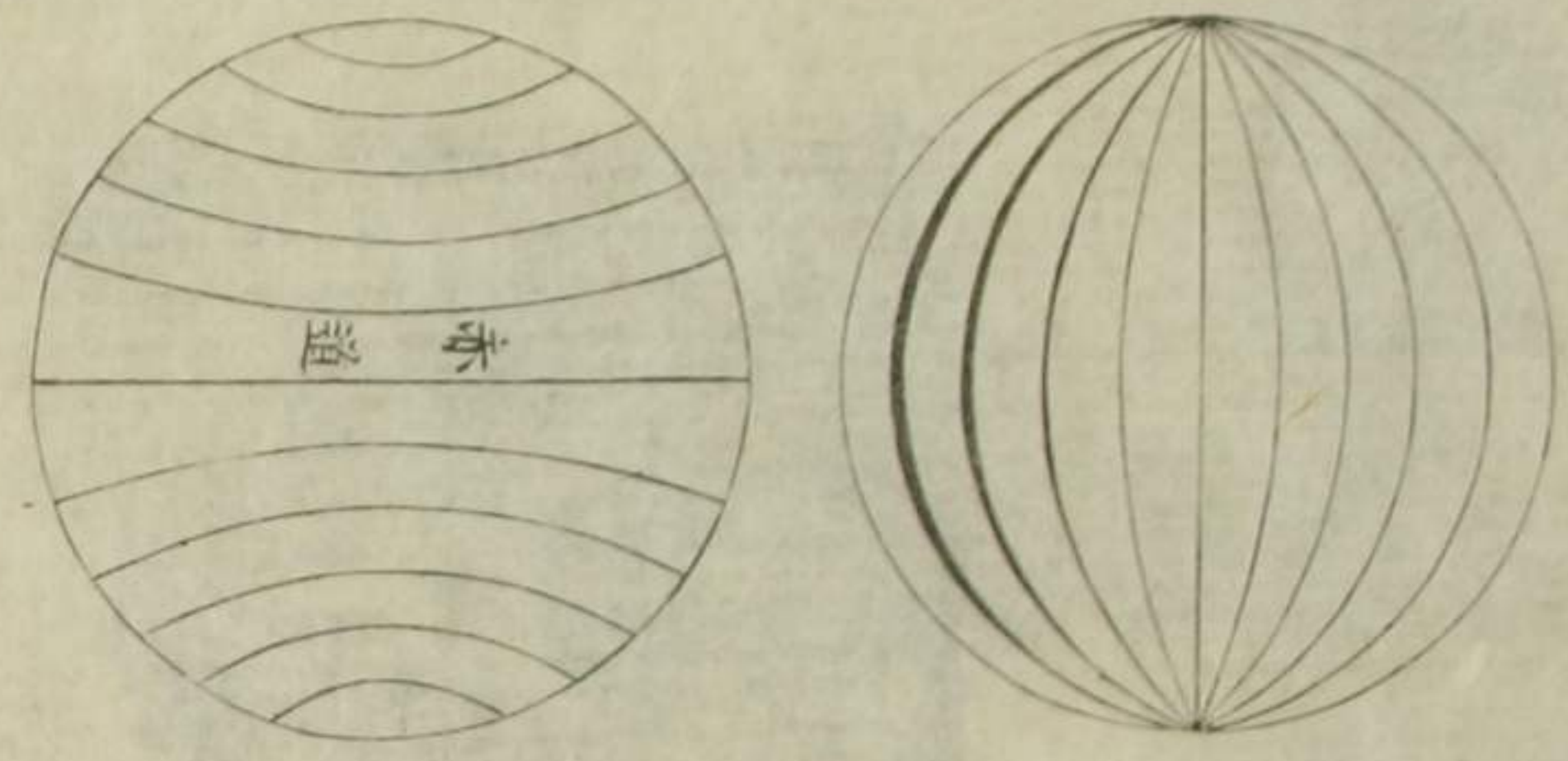
羅針盤の圖



地球の面へ縦横小線と引き南北に通る線と子午線と名け東西に通る線と平行線といふ地球の状圓きゆ一斯く縦横小引通しとる線の状も

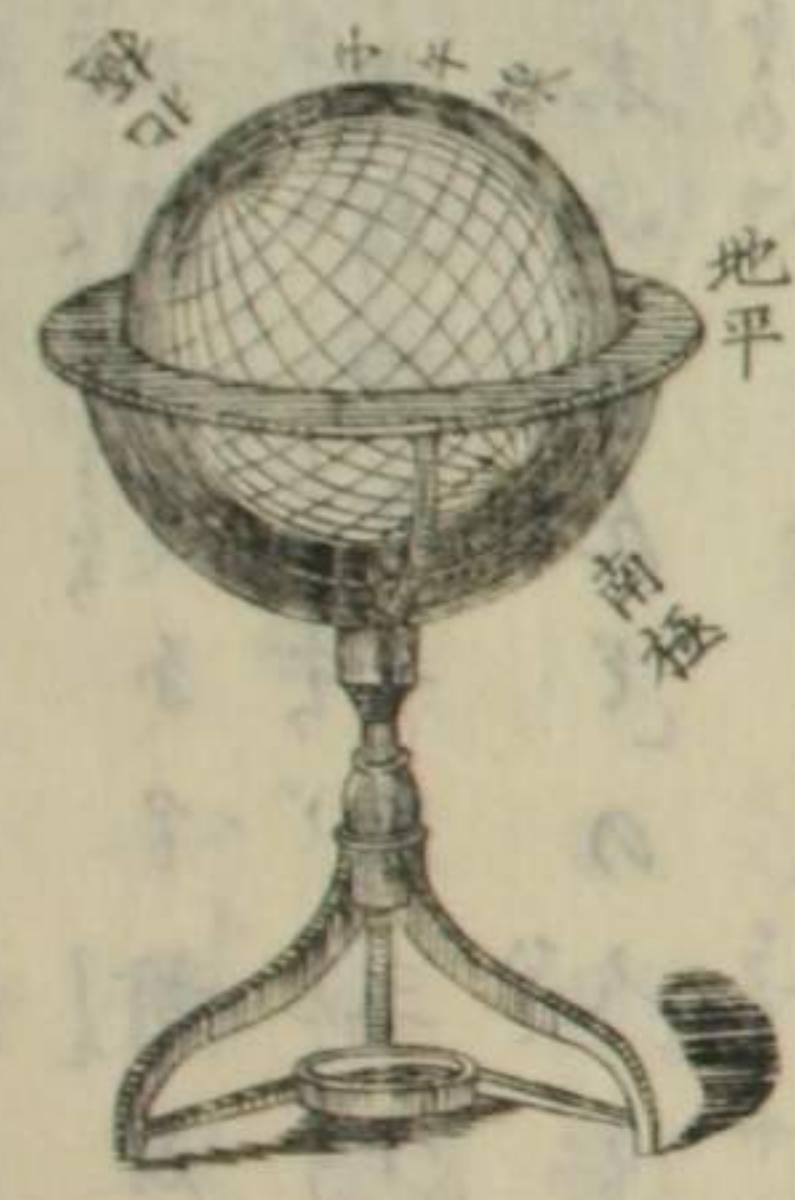
四方のミから東西南北は間と分ち又其間を小介して細小これと盤面を記しての方角小従て船の道筋と定るものなり

線行平の線午子



圓くして輪の如く其の圓き
 輪と三百六十分して其を
 一度と名け東西刻むと
 と經度といひ南北刻む
 と緯度といひ平行線と以て
 南北の緯度と計るハ真中
 の赤道と本として勘定と始
 む譬へバ地理の圖書中北
 緯三十五度といへバ赤道

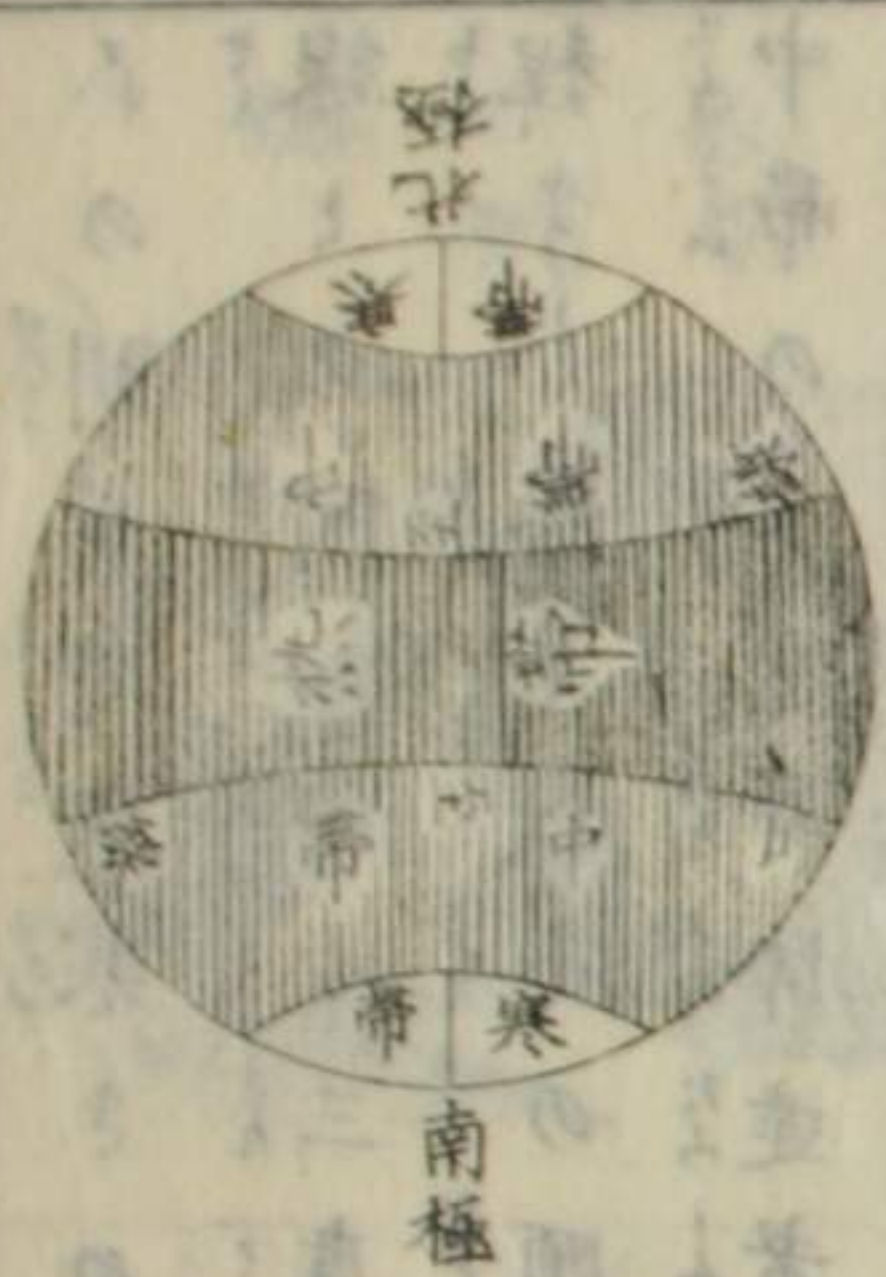
地球儀
 經度緯度
 と刻みた
 圖



北の方三十五度不當といふ
 又ハ亞米利加のかさねるふや
 緯の方もおれな同ト子午線ハ
 勝手次第をきども大抵地理書ハ
 地球儀
 經度緯度
 と刻みた
 圖
 地平
 緯度
 經度
 何きの地より始
 の天文臺を以て本
 不立て是故に東
 經百四十度とい
 へバ英吉利の天

父臺より東の方百四十度不當るといふ處と
て丁度日本國の處かを新おいらんどハ東經百
七十七度南緯四十七度三十分不當きを故本
篇ふも新おいらんどの人と英吉利の人とハ足
のうらと向合せおいて昼夜相及るとの處と
と記せし

地球の周圍ハ英の里法おて二萬五千里の日本
本の里数よきき一萬三百五十里余なり故小
めを三百六十割とる一度ハ二十八里七合



六分四か余は當る但し此を赤道の處おて測
るものおて南北の方お近よきバ次第は短く
なり其極は至きバ何もなくある理なり
赤道より北と南へ二十三度半づの處は線と
引きぬきと二至線と名けぬの間ハ時候熱故

又熱帯と名く又南北の極
赤道の方よりぬきと
二十三度半づの處は線
と引きぬきと極線と名く



熱帯諸國の獸類

この間ハ時候寒き也一寒帯と名く極線と二至
 線との間ハ四十三度の廣さの間の間ハ時候
 程よく春夏秋冬の順序正しき也一中帯と名く
 中帯の人々も身体達者にして氣力も文明開化
 の極度に至る一そのも唯此
 方角の諸國の歐羅巴
 北亞米利加之合衆國支那日
 本等皆中帯の内なる熱帯
 の地ハ草木もく生長し獅

駝鳥



寒帯の獸類



子犀象豹虎蝮蛇等多一又或
 ハ駝鳥やハ大ハカ
 鳥の中間寒帯ハ絶て
 きそのなり寒帯の地ハ禽
 獸草木少く人の身体小短
 一愚也獸類ハ白熊馴鹿
 等や都て寒地ハ生む獸
 ハ皮厚くして毛深一天然
 寒氣と防ぐくめを

半嶋とハ三方水ホ一て一方の大地は續きた
るといふ日本ホていハ肥前の嶋原の如き也

嶋半の地狭の圖



地峡とハ大洲と大洲と續く
く更ハ又ハ半嶋と大洲と
續く更の狭き土地といふ
譬ハバ亞細亞洲と阿非利
加洲と續く更ハ末洲の地
峡を南北亞米利加之界

小巴奈馬の地峡なり

岬とハ海ホ突出したる陸地といふ阿非利加之

南の端ホ喜望峰なり南亞米利加之端ホもんぶ

あふらんり

土地の高きもの山といふ但し地學ホ於て也

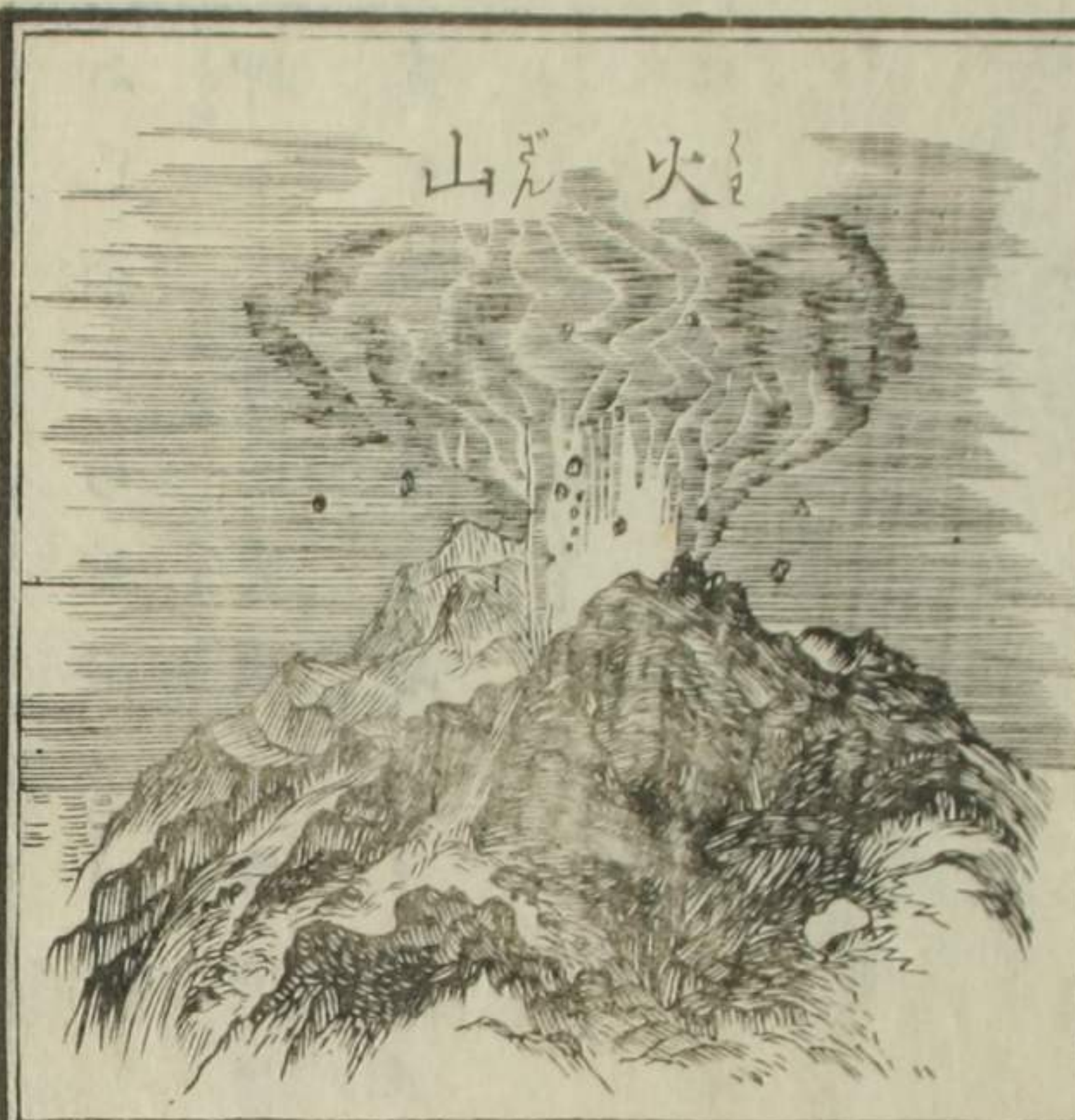
高さ千尺以上あるものと山と唱へ千尺以下の

もの高きと幾尺と計るハ海面

より勘定しざりものか至世界中の高山ハ印度

のひりや山と第一と其高さ三萬尺に近し

即ち英吉利の里法にて五里余の高さを量るれば
ども此を世界の大地に比ぶれば



地球の中徑千六百
分の一を譬へばさ
し渡り一丈六尺の玉
ふ五分をうるの贅
ろが如く地球の大
すゝみと思ひ知るべ

火山と噴き烟を出るものを火山といふ世
界中小其數三百ありその内の二百ハ嶋國の山
なり

廣き砂原ハ雨降らざれば草木生長せざりもの
と砂漠といふ阿非利加荒火野の砂漠あり

日本ハハ砂漠なり
大洋とも外海の名とあり實ハ世界中の海ハ其
水の互小通ぜざりて夷れぬとみれば一大洋と
いふも差支なき事なり地理の模様ハ由り

かて五大洋とせしむる即ち太平洋阿多羅洋印度

大洋



洋北極洋南極洋は
色を本と用ひて
ハ唯人の見り
字と用ひ
大洋の深さと詮索
せしむるも
だ確かると知らざ
その底小凸凹あり

ハ陸小山阪は如しその最も深き處も陸の
山の最も高きものも等しかるべしといふ
海とハ大洋より狭くして其周圍小陸地の近き
所のといふ地中海黒海の如きあり



湖水ハ淡水の集る
るものなりその源を
河を流る或ハ湖
の底より湧出するもの
も河を其出口ハ又河

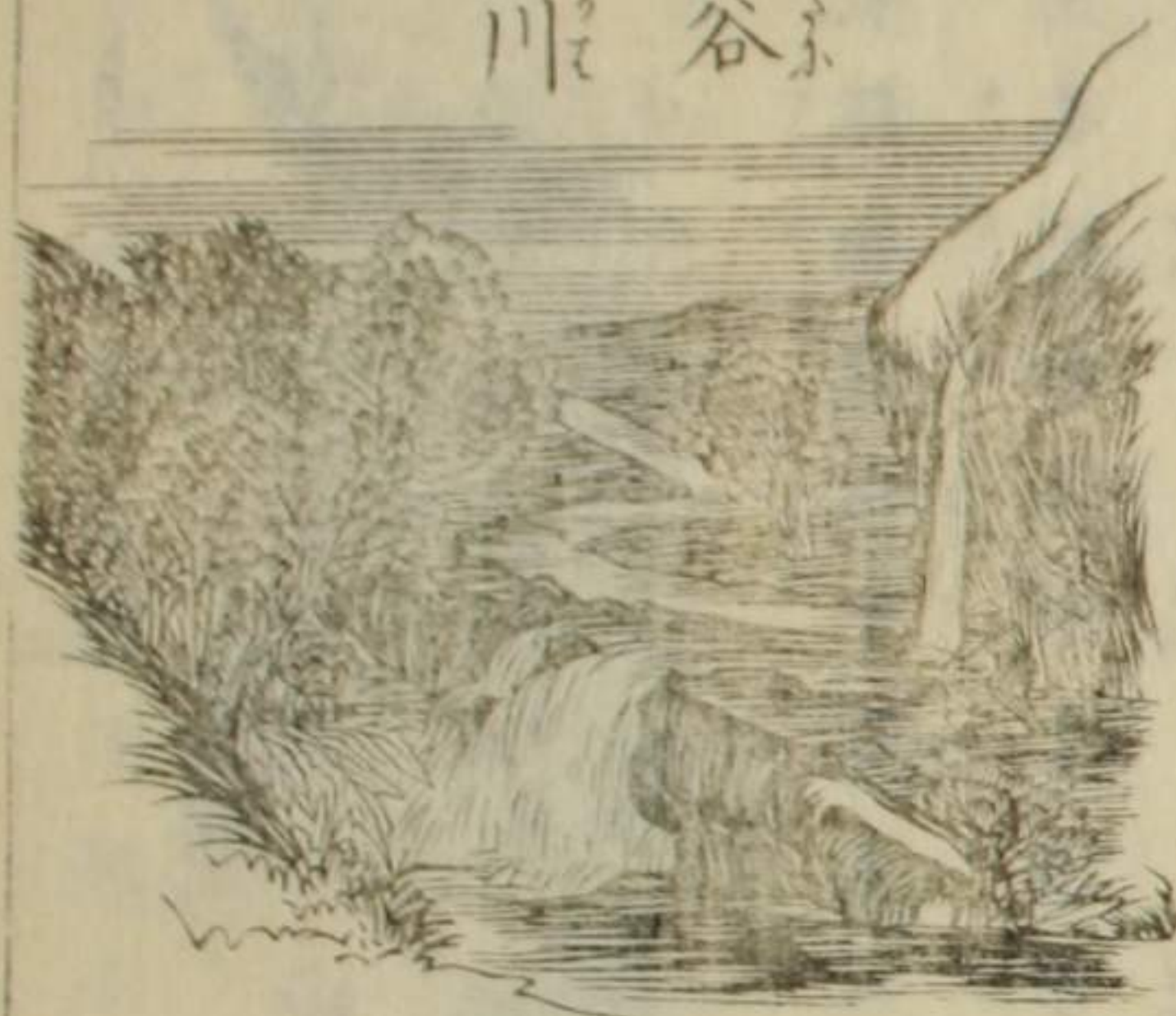
北亞米利加
の合衆國と
金田との界
まろる湖水



船の碇泊をなす處と港と
一は灣又ハ辨輕の入海等
これをも其狹くして

不出て海へ入る世界
第一の湖水ハ北亞米
利加洲より
入海とハ三方ハ陸地
にて一方のミ外海ハ
續くものさハ或も
あまを灣といふめき

山谷川



瀬戸とハ海と海と続く狭き處をいふおぶらる
たこの瀬戸ハ阿多羅海と地中海と續く處より
下の關の瀬戸を周防洋と玄界洋との界目ハ

陸地の低き處より流る水
と河といふ河の源ハ或ハ
泉より出或ハ湖水より出
づ雨雪の雪山の中ハ溜る
その穴より流出て山谷川

多ムヤグの瀧



とある次第は集る
 て河となり又合一
 大河とあり遂に
 海に入るなり南亞
 米利加の「ワシントン」ハ世界第一の大河にして北
 亞米利加の「ミシシッピ」ハ世界第一の長河なり
 河の流る路まで俄に低き處へ落るものと瀧
 といふ合衆國の「オハイオ」州は「ペンシルベニア」と
 いふ瀧の最高さ百六十尺世界中の名所なり

人間の地理

天然の地理ハ萬代不易にして開闢の始も今日
 も大ひま異なりあとかいさきども地球の面小
 生さるる人の了簡を以て其地面をから其界を
 定て各政府を立きバ人民共よその為筋を思て
 ざらものか一是即ち人間の地理ハ區別を生ド
 世界中小國々の介する所以なり其の區別ハ固
 して人の作せしものあれば万代不易ありを得
 ざる由て師と起さるるのゆゑ野心を抱て國を

盗むもの力を威力と以て土地を押領するもの
 所是即ち諸國の盛衰興敗の變りる所以なり
 斯く人の意を以て勝手次第に定めたる國の界
 は必ざりしも海陸山川の地理と目的とせざ或ハ
 唯双方の人況約束したる條約の書面を由ての
 其界を守らんとす然もとも事實の便利
 と謀り暴人の襲を防ぐとありハ大洋又ハ山川
 の筋を據て界を立ちと良とも
 本篇の始なりといふ如く世界中の人種を五小

かちその容貌知愚同トからざるも巴邦の國々の
 風俗生産の道も亦一様からざる
 ① 文明開化とハ都會を開き市町を立て住居の
 處と定め安樂の家小居を事々物々ハ順序と違
 へど心と勞し身と役し禮と重んじ義と貴ぶも
 のといふ
 ② 蠻野とハ住居と定め水草と逐て處と移し
 或も牛羊と飼ひ或ハ鳥獸と捕て渡世するもの
 といふ

右二様のものを尚又細き區別をうけたる左の
 如し
 第一と渾沌といふ蠻野の内ふても最も下等の
 民よて鳥獸の仲間と外りくはと甚く遠く
 阿非利加の内地新ざんか、ゆふそとくそやま
 どの土人ぬきやうりてくもふく廣き野原は排
 徊して獵澳と業と一或ハ虫と喰ひ或は野山ふ
 生トとる木の實草の根と食物とを其人の性質
 慈悲の心かくして互小相争ひ物事お迷ひ易く

して人の道と知らざる甚くさきハ人の肉を喰
 ふものゆを其住居ハ常お家か一或ハ粗末なる
 小屋楸と作て一村の趣を成をみともゆきども
 便利次第ふて忽ち敵トその痕跡も見ぞ農業と
 勤免ごまバ五穀と喰らば衣服も甚く見苦し
 して大抵膠体の者多し其知識ハ固く狭く
 文字を知りど法律と知らざる禮義の道なく地面
 の區別ふし斯く愚民の内ふも矢張頭介のもの
 ゆきて大勢を支配しその取扱ひ甚く暴虐無

道

第二と蠻野といふ渾沌の民より一段上席か
 支那の北方韃靼荒火野又ハ北阿非利加の土
 民等出まを此種類の民ハ住居の家なく天幕
 と張て雨露を凌ぎ或ハ家を作るとても甚るる
 粗末なり水草の便利のためハ其天幕又ハ家
 作と携へて處を移るゝゆゑその食物ハ牛羊
 の肉と喰ひ其乳汁を飲み稍農業の道と心得て
 五穀と喰ふ者も蠻野の國ハ文字もなしと

もみきと讀み書きを以て者ハ甚るる稀なり藝術
 小至してハ最も拙くして道具仕掛の工夫を知
 らざ此人民と支配を以てものハとを以て
 て家筋の人なり下々の者ハ此の人を親介と
 君父として恭ひ尊びその法甚るる不人情あり
 て暴一
 第三と未開又ハ半開といふいさゞ真の文明開
 化ハ至らざしてあつた開けかゝりたるもの
 蠻野は較るる遙々上等なり農業の道

よく行届て食物多く藝術も進て次第小巧も趣
 き都會を開き家居と飾を文字學問の道も随介
 盛かを但一嫉妬の心深くして他國の人を忌
 嫌ひ婦女子と輕蔑し弱き者と苦しむる風あり
 支那土留古邊留社等の諸國ハあつて開けり
 ものといふが
 第四と文明開化といふ禮義と重んぶ正理と貴
 び人情穩おして風俗やさしく諸職の術ハ日小
 新おして學問の道ハ月小進る農業を勤め工作

と勵む百般の技藝盡さるるのやう國民業と
 安んじて天の幸を受け未頼母しく自から満足
 せし亞米利加合衆國英吉利佛蘭西日耳曼和蘭
 瑞西等の諸國ハ文明開化の域お至るもの
 といふが
 世界中ハ帝國あり王國あり公國あり侯國あり
 或ハ共和政治の國あり帝國とハ帝の支配を
 國あり魯西亞、埃地利、佛蘭西の如きあり
 國とハ王の支配を國あり英吉利、普魯士、西班

牙和蘭の如きあを公侯の國もあきお同ト
 共和政治の國とハ主君かく國中の人の申合せ
 おく治むる國かを南北亞米利加洲の諸國瑞西
 理邊利屋の如きあを
 國中の支配取締の便を謀を其地面を州かから
 郡もかち縣も分てをその名目ハ國々おて同ト
 からざもども事實お於て相異なりあとか
 人民の多く集めて家を建て市町を開き一處と
 都會といふ亞米利加合衆國おて大都會と唱ふ



合衆國の
 都會「ワシントン」
 との景
 んの景

る處ハ「ワシントン」
 きでるひやがふとん
 むるちもふにりや
 るいん等あを都會の
 場所を撰ぶハ商賣の
 便利を謀を産物運送等

の模様は由てあを定るものなり
 首府ミヤコ或ハ唯都トコとハ一國の政府のあり場所とい
 ふ「ワシントン」ハ合衆國の首府なり「ワシントン」ハ

英吉利の首府を
 政府の体裁とハ其國を治むる法の立方を以て
 其の種類三あり
 第一を以てなすきといふ立君の義を立君とハ
 一人の君を立て其國を支配するあり
 一ハ英吉利佛蘭西魯西亞其外の國々ハ皆立君
 此國を立君の政体を又二種に分ち一を定律
 立君といふ國君一人あり政事を自由おせむ國
 内の議事院として評定所を開き國中一同の入札

此人物を選び毎年此の評定所を集めて法律
 と定め掟を設け一人の君として國の掟と破
 得ざるまかみられたるものなり譬へ其國の君
 不行状も奢を極め或ハ妾お師を起して國中
 一用金を以て付んとするも議事院の評議小
 く決して許さざ都て君の威權ハ甚ど弱く國を
 先おして君を後おするの趣意あり英吉利和蘭
 西班牙等の如きあり又一種の「もかすき」と
 獨裁立君といふ國小君を立てての君一人の勝手

次第ついでおて政事まつごとを捌はかき國民こくみんの生命いのちも君きみのものな
 らしむひ上あがより人の意いお背むかけバ罪つみを犯とげたる者ものをも
 殺ころすもはしむる國民こくみんの家藏いっくら身代みしろも君きみのものなり
 とひひ上あがより人の見み込こみ次第ついでおて妄あやふ年貢ねんぐん運上うんじやう
 を取とり立て或あるハ罪つみお陥おと入いりて欠所けつじよおをさめと何なに
 事ことも一人ひとりの了簡りやうかんおて天下てんかを私ひそにするものな
 り魯西亞ろしや土留とちう古支那こしな等の如ごとく其君そのきみ若わかく賢明けんめいお
 り人物じんぶつおてよく心をこころ用もちきバ國治こくちらざるおゆと
 ざれども萬一まんいち無學むがく文盲ぶんもうおて自みづから増長ぞうちやうをさると

きハ民たみの難澁なんじやく一方ひとへなりむをみせを暴君ばうきんといふ
 第二だいにの政体せいたいと貴族きぞく合議がうぎといふ家柄いへがらの貴たかき人々ひとびと
 寄集きしふして政事まつごとを取扱とらふものなり
 第三だいにと共和政治こわうせいじ或あるハ合衆政治がうしゆせいじといふ國中こくちゆうの人
 民たみ申合まをおて政事まつごとを捌はかくものなり共和政治こわうせいじの趣おも
 意いハ世よの生なまもさる人ひとと同等どうとう同格どうかくのものなり
 定め其論そのろんお云いふ九こと人ひとたるものハ各おの各おの精せい心しんなり
 身体ていの重おもき人ひととして此この精せい心しんを二ふた通とほ具ぐふさふも
 りて手足てしゆを八本はつぽん持もつおもゆとむさるるを天然てんぜんお

貴賤のわらうをたよりかきし況して歴代の家柄の
 こと口實おしてたまたく其人小才徳ゆをバ格別
 かととも若し然らざして唯其位の人の上は
 立ち心ハ賤くして我侗を逞ふをりたハ下々
 の者ハさとい人小勝れさ才徳ゆも暴人の
 下ハ恐入る百姓町人ハ汗と流して家業を營
 一錢づつ貯へよる金ともかゝりた驚おさし
 如くいつの間かりハ取上らる上の人ハ我
 俵放盪おえ入る姿おもバ大ひハ天理ハ戻も

を畢竟世の中ハ政府を立ちも國中ハ不正な
 事の行ハもさう人々の生命の危うらさる
 よふ其身代を失もざらうか他國の侮を受けざ
 りよふ其取締をかゝ其守護を設るためハ役人
 ともありらハ武備をも整へ農工商もとの入
 用と拂ふ訳あもバ譬へバ下々の者ハ金を拂ふ
 て物を買ふが如く直段ハ成大け安くして品柄
 ハ成大け上物を選べさ苦かり然るハ其代金を
 かを渡して品物とバよろで請取らぬのミウ却

て其金をたゞ奪ひし者のため外痛らざるや
 のはとゆきてハ以ての外なり害ありて益あり
 らとかは故に貴賤上下歴代家柄をせの語ハ打
 止り人々其天然の心を勞し其天然の身を働
 一人の妨とふさぎし共々其身を守り其
 父母妻子を養ひ其家を治め其國を建て趣意を
 き命令と下すものなり趣意なり貢税を取立
 るものもなく天下太平國家安全を致す節しと
 右の議論不擾もバ政府もなくて済む節あり

なりきども人の心の同トからざるハ其面体の各
 異なるが如し且天下の人萬人ハ万人皆善人ハ
 もゆきさきハ議論なり能く故に國中の
 人申合せ入札と以て人物を選び政事の頭取と
 立て評議の役人としひ付け在役の年限中ハ相
 當の給金を取らして政を為さしめ専ら國中一
 同の便利を謀り外國へ對して侮を受けど國威
 と海外おきて耀々を趣意とせり亞米利加合
 衆國おてハ此頭取とぶとトてんとといふ在役

亞米利加合衆國議院の圖



上席の者ハ六年交代下席の者ハ二年交代ナリ

世界國盡附録終

四年交代一年の給金二萬五千
を評議の役人
ハ上席と下席
と兩様ナリ

明治二年己巳八月
官許

禁偽版

慶應義塾 藏版
岡田屋嘉七 賣弘

